

(1) 正確な情報収集に努めましょう



テレビ・ラジオ・インターネット等で最新の気象情報、災害情報、避難情報を確認しましょう。
大雨により河川の氾濫や土砂崩れなどの災害が予想される場合は、雨の降り方や周囲の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

(2) 宅地への浸水に備えましょう



下水道の能力（平均的な降り方で1時間当たり47mm程度）を超える雨が降ると、地形的に弱い箇所から浸水が発生します。宅地の低い箇所に土のうを積む等により浸水に備えましょう。
敷地内が道路より低い「半地下構造」の宅地や、道路と同程度の高さの宅地の場合は特に注意しましょう。

(3) 不必要な外出は避けましょう

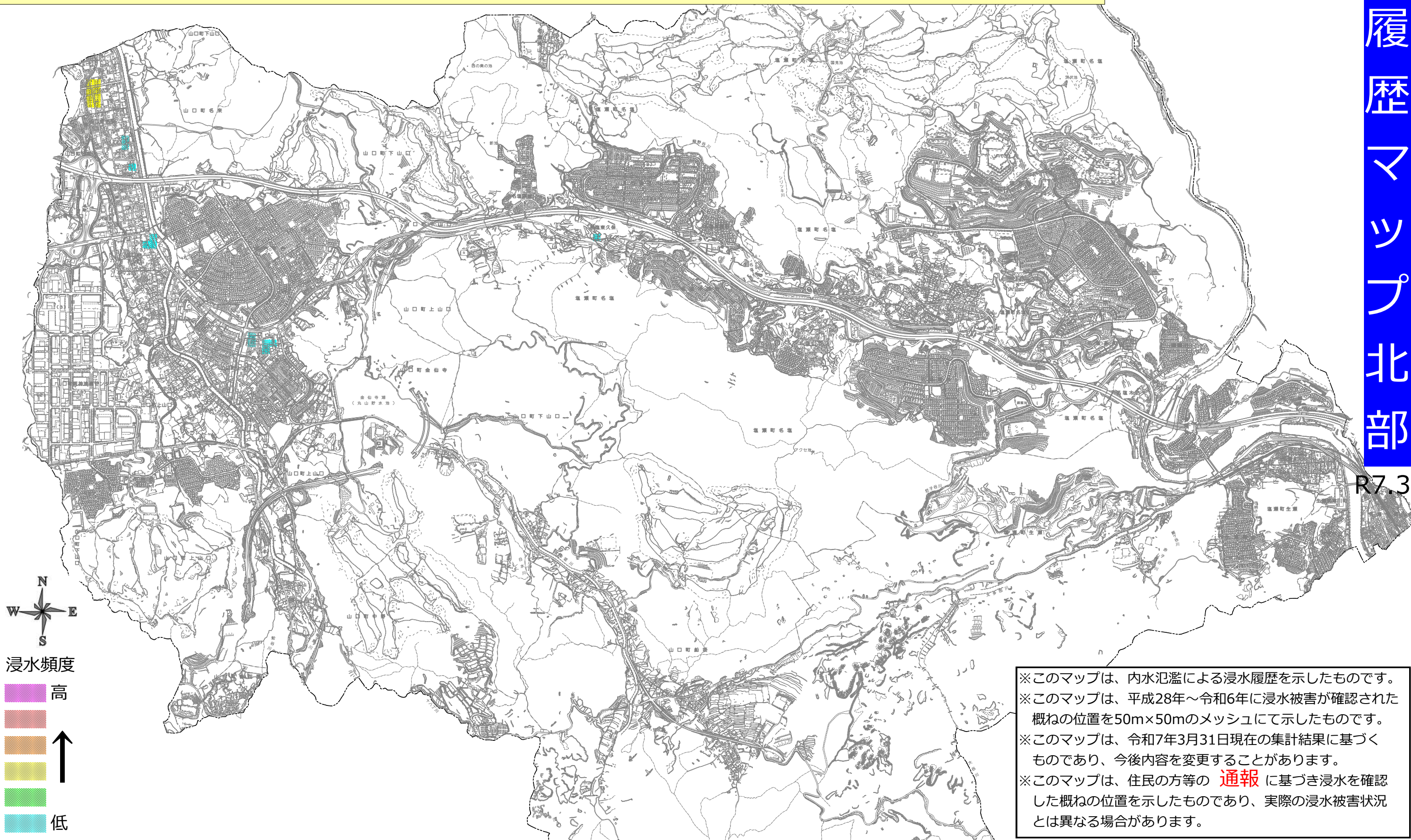


大雨の時は道路冠水が発生する可能性があります。
道路冠水により、マンホール蓋の外れや道路上の段差などに気づかないことがあります。危険です。
また、雨が止んだ後には冠水していた水が勢いよく下水道へ流れ込み、足元をすくわれる可能性もあります。大雨の時の不必要な外出は避けましょう。

(4) アンダーパスの通行を避けましょう



大雨によりアンダーパス（他の道路や鉄道等との交差で、周辺より低くなっている道路）が浸水し、通行できなくなる可能性があります。
浸水しているアンダーパスを無理に通行しようとすることは大変危険です。



※このマップは、内水氾濫による浸水履歴を示したものです。
※このマップは、平成28年～令和6年に浸水被害が確認された概ねの位置を50m×50mのメッシュにて示したものです。
※このマップは、令和7年3月31日現在の集計結果に基づくものであり、今後内容を変更することがあります。
※このマップは、住民の方等の **通報** に基づき浸水を確認した概ねの位置を示したものであり、実際の浸水被害状況とは異なる場合があります。